

令和2年度 収穫研修を開催

～ 収穫調査における 標準地設定の手順、搬出方法など職員全員で検討 ～

11月6日、豊後大野市千歳町に所在する権現尾国有林28林班内において、本署、各森林事務所職員20名が参加して、令和2年度収穫研修を実施しました。

はじめに、猪島大分森林管理署長から「森林が利用期を迎える中、森林の調査は現況を把握するうえで重要な業務です。日頃から森林の蓄積、植生の状況など森林を見る目を養うことが重要であり、本日の収穫研修を機会にさらに身につけて欲しい」挨拶を述べました。

つづいて、臼杵森林事務所の堀田首席森林官から現地の概要の説明があり、高倉総括森林整備官、廣田・嶋主任森林整備官から収穫調査時の注意事項など説明しました。

その後、4班にグループ分けしてヘクタール当たりの蓄積を目測、標準地調査、ビッターリッヒの3つの方法により、森林の蓄積を求めました。調査に際しては、ベテランの先輩が若手職員に樹高の見方、標準地設定のポイントを教示しながら調査を行いました。

若い職員からは、ヘクタール当たりの蓄積を求めましたが、それぞれ異なったデータとなり、今回の研修で学んだことを、これから経験を積んで行くことが大切であると感想を述べました。

当署としては、森林情報を把握するうえで、収穫調査は森林整備などの基本となるものであり、航空写真等も活用し効率的な森林情報の把握に努めて行くこととしました。



猪島 大分森林管理署長 挨拶



樹高測定の様子



樹高測定の様子



測定結果を発表